

第93号

2010.5

発行所：四ツ葉園広報委員会
松江市古志町1551-4
TEL. (0852)36-8877
FAX. (0852)36-8894
印刷：授産センターよつば



ごあいさつ

理事長 青戸 稔

平成二十二年度もスタートし、はや一ヶ月。新年度からの利用者の方々もそれぞれに、新しい生活に慣れて来られたのではないかと、感じているところです。

昨年は「新型インフルエンザ」の世界的な流行で、大変心配しましたが、おかげさまで、施設内での感染は防ぐことができました。このことは、日々のうがい、手洗いに加えて建物、送迎車等の消毒に力を入れたことはもとより、保護者の方々から、様々な周辺状況のお知らせなど、ご協力いただいたおかげであると、感謝致しております。

…ふと目に止まった桜の木はすっかり葉桜と

なり、若葉の力強い芽生えに気持ちの高鳴りを感じつつ、障がい者福祉をとりまく情勢に思いを馳せれば、「障害者自立支援法」に変わる法律を平成二十四年の夏までにつくる」としながら、依然として政局も不安定な状況が続いており、来年、再来年は「どのような花が咲くのか」未だに分かりづらい状況です…。戦後、わが国の福祉と教育に新たな道を開き「障害者福祉の父」と呼ばれる糸賀一雄（近江学園創設者）は「この子らを世の光に」という言葉を遺しています。これは、恵まれないかわいそうな「この子らに世の光を」当てるのではなく、障害のある「この子ら」の存在そのものが世を明るくする光であり、その光に気づく人々を増やすのが自分達たちの仕事である、という彼の信念そのものでした。

厳しい時代ですが、少しでも現場の状況に即した制度がつけられることを願う一方、どのような時代に時代や制度が変わろうとも、今こそ、そういった原点に立ち戻りながら、利用者の方々へのより良いサービスを提供し続けていかなければ、という思いを新たにしています。そのために、職員一同、一丸となって取り組んでいく所存でありますので、今後ともよろしくお願いいたします。

「ケアホームよつば」開所

平成二十二年度もスタートし、早一ヶ月が経ちました。今年度は、昨年十月に身体障がい者のためのケアホームの建設が制度上可能になり、地域移行に向けたステップアップの一つの方向性として、「ケアホームよつば」がこの四月一日より開所となりました。

あわただしい中の準備でしたが、七名の定員の内六名の利用者を迎え、新たな生活の拠点として動き出しています。

ケアホームを利用する皆様が地域生活を目標として、少しずつ個々の目標をクリアしていく事で、それぞれが自信をつけ、地域生活に向けての意欲を高めて頂けたらと思っております。

今後は、個々の目標に沿った企画を立て、どんな工夫をすれば、より安全で納得のいく生活を送れるのかを利用者の皆様と納得いくまで話し合い、確認をしていく事で将来へつながればと考えております。

なにぶんすべてが初めての事ばかりで、利用者の方にはご迷惑をお掛けする事とは存じますが、スタッフ一同、利用者の皆様が目標に少しでも近づけるようお手伝いさせて頂く所存です。未熟なスタッフばかりではございますが、何卒、宜しくお願いを申し上げます。

(サービス管理責任者 山根 輝美)



園内研修に参加して

三月十五日より四ツ葉園の農加工班で職務を行っております。大西晴幸といえます。

皆様、よろしくお願ひします
園に勤めて最初の研修は、しいの実シアターの有田先生を交流ホームに招いて行われた研修でした。

「大きな声であいさつや話が出る様になる。」ことを目的とした内容で、「どんな事をするのだろうか？」と緊張をしていましたが、有田先生が明るく楽しい雰囲気を作ってくださり気持ちもほぐれて研修を行えました。

「パンと壊れたトースター」、「感電ゲーム」などいろいろなゲームがありました。私が一番印象に残っているのはみんなが大きな輪を作り、スタートの人が「あ」と言うと同時に手で伝えたい相手を指し、指された人は「い」と言つて次の人を指すという様に五十音「ん」までリレーしていくゲームでした。

最初はすぐに途切れていましたが、有田先生からアドバイスを受けると、うまく繋がっていき、「ん」までたどり着きゲームを終えることができました。

そのゲームで受けたアドバイスは言葉を相手に発する時、顔を相手に向け目で見るとより相手に伝わりやすいのだと教わりました。仕事をすすめる中で利用者さんによってはこちらの声を受け取ることが多少難しい方がおられます。是非そんな時、利用者さんと話をする時、研修で教わった事を実践してみようと思います。もちろん職員の方々との挨拶や会話でも使っていきたいです。

最後に研修をしてくださった有田先生有難うございました。
(大西 晴幸)

自閉症スペクトラムの特性について

二月七日(日)に松江ニューアーバンホテルにて自閉症スペクトラムの特性についての研修が開かれ、参加させて頂きました。

「スペクトラム」とは社会性の障害、コミュニケーションの質的障害、想像力の障害、強いこだわり等がある事を指します。対応として、スケジュールや絵や写真等を活用して視覚的に分かりやすく予定や物事を説明していくことを幼少期から行って

いくことで、成人になってからスムーズに受け入れやすくなるということでした。四ツ葉園では成人になつてからそういった対応を始めた方がほとんどであります。その利用者の方に合ったスケジュール等で作業や生活の流れを継続して行けば効果はあると講師の方が話されてました。

最後に、人それぞれ違うように、自閉症の方も各々個性を持つておられます。その方の言動にどの様なメッセージ性があるのかを正しく受け止めたうえで、個別に合った支援をしていくことが重要と感じました。この研修で学んだことを日々の業務に役立てて行きたいと思ひます。

(串崎 幸司)

第1回 脳損傷ケアリング・コミュニケーション学会に参加して

四月十、十一日出雲市民会館で第一回脳損傷ケアリング・コミュニケーション学会が行われました。

学会の概要としては、脳損傷者がケアリング・コミュニケーションの中で回復していくこと、また周囲が支援するという一方向だけでなく、周囲も脳

損傷者から学ぶという双方向で支え合うという目的で、講演、研究発表、当事者パフォーマンス等の企画が行われました。また、作品展示や作業所の販売などもあり、授産センター、四ツ葉園も出店させて頂きました。以前は脳の損傷は再生・回復しないとされてきたが、最近では回復するということが実証されてきています。今回の学会に参加して、その事を強く感じる事が出来ました。また、病院での機能訓練による身体的な回復だけでなく地域で生活していくうえでの社会的能力の回復もあります。周囲が変わることが、回復に重要であるということを学会に参加して学びました。さらには当事者パフォーマンスや電動車椅子での一人旅報告では、当事者の方のパワーを感じとても感動しました。四ツ葉園のパンも完売し、とても充実した学会参加でした。

今回は脳損傷の学会でしたが、双方向で支え合うという事はどのような障害でも同じだと思います。私たちが学び変わっていく事で、支援される方も変わっていくことを意識して日々の業務に取り組んでいきたいと思ひます。

(大中 信祐)

避難訓練について

三月十七日、四ッ葉園で避難訓練がありました。今回は西棟男子浴室からの出火を想定したものであり、夜間設定の中での発報でした。

訓練は何度か経験したことがありましたが、避難誘導担当者としては初めてであり、いざ、出火場所に駆けつけた時には、煙の範囲が広く、一メートル先も見えない状態でした。それに加え、マスクを着用しているにも関わらず、煙が肺に入り、利用者の誘導以前に自分の身体的影響が出る可能性が高いことも思い知らされました。

実際の火災では、煙だけでなく、火が加わるため、私たちの想像を絶する場面が予想されます。

今年に入り、各地の施設で悲惨な火災事故による、犠牲者が多数出ています。私たちは、利用者の命を預かっている立场上、決して火災を起こさない確認業務と万が一に備え、職員一人一人が正しい避難誘導の仕方を把握しておく義務があります。

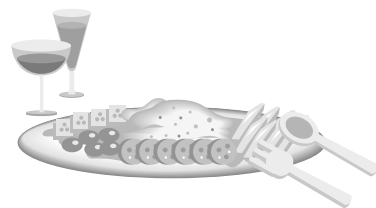
今回の訓練は、改めて火災の恐ろしさを痛感させられる良い勉強になりました。

(原 直也)

四ッ葉園

春の

ディナーパーティー



2月1日より四ッ葉園更生部に勤務しております西尾里美です。よろしくお祈りします。環境生活班で利用者の方々と一緒に、清掃や軽作業等を通じて、日中活動の支援をさせていただいています。

去る3月26日、年度最後の行事である「春のディナーパーティー」に参加させて頂きました。これは今でこそ、毎年恒例の行事になっていますが、利用者、職員総勢200名以上が一堂に会して、ホテルでフルコースのディナー会食であり、「年々、利用者の方々が『場慣れ』してこられた」という話も聞きましたが、長年続けることは大変であったろう、との印象を受けました。

とても広い会場でたくさんの利用者の方や職員と食事をさせていただき、利用者の方はおしゃれをされ笑顔で楽しそうに食事、会話をしておられ、その様子に私も笑顔になりました。とても豪華な食事で利用者の方は目でも舌でも楽しむことが出来ていました。普段あまりコミュニケーションをとる機会のない利用者の方とも会話することが出来ました。

素敵なパーティーに参加させて頂き普段の生活では見る事のできない利用者の方の表情を見ることが出来、楽しい時間を過ごさせて頂きました。ありがとうございました。

(西尾 里美)



行事予定(5～6月)

5月	10日(月)	全体集会
	14日(金)	工賃支給 (授産センターよつば)
	25日(火)	工賃支給・天神市
	28日(金)	理事会・評議員会
6月	10日(木)	全体集会
	15日(火)	工賃支給 (授産センターよつば)
	22日(火)	健康診断 (利用者)
	25日(金)	工賃支給・天神市

リハビリテーション 機器の設置

中央競馬馬主社会福祉財団の助成を受けて、授産センターよつばに、股関節などを強化する三種類のリハビリテーション機器を購入・設置いたしました。

そして、去る二月二十四日(水)、同施設の機能訓練室において、使い始めの式典を行いました。

現在、十三名の利用者の方が、大中作業療法士の指導のもと、週二～三回訓練を実施しています。

中央競馬馬主社会福祉財団のご支援に感謝いたします。(蒲生 精一)

購入金額 三百十四万円
うち、助成額 二百三十五万円

授産センターよつば

やすらぎの家との 交流会

今年度
第1回



日本財団(元日本船舶振興会)の助成を受けて、やすらぎの家と授産

送迎用車両の整備



センターよつばに、車いす対応型の送迎用車両を各台購入いたしました。そして、去る三月二日(火)、やすらぎの家玄関前で、試乗会を実施しました。

やすらぎの家では、十名の通所者の送迎用に、また、授産センターよつばでは通所や通院用として使用しています。

日本財団のご支援に感謝いたします。

(蒲生 精一)

やすらぎの家 配備車両

トヨタハイエース 十人乗り

購入金額 三百十六万円

うち、助成額 二百二十四万円

平成二十二年四月二十三日、生活介護事業所「やすらぎの家」と授産センターよつばの交流会を行いました。今回は、花見とグラウンドゴルフ・お茶会で食事をする予定でしたが、あいにくの天気と寒さのため体育館での食事会となりました。

利用者さん同士も慣れ打ち解けておられ、グラウンドゴルフは人数も多く大変な盛り上がりで皆さんとても楽しまれました。

ご協力頂きました、利用者の方・職員の皆さま、ありがとうございました。

(大久保友世)

授産センターよつば 配備車両

ダイハツハイゼット 四人乗り

購入金額 百三十二万円
うち、助成額 九十三万円



編集後記

「日照不足」で野菜高騰のニュースなどを良く見かけますが、それでも少しづつ暖かくなってきました。利用者の方々の衣類調整も難しい時季ですが、お互い体調に気をつけましょう。

※本紙に使用した写真等はご本人・ご家族の了解を頂いています。